

平成27年 9月29日  
国立研究開発法人  
日本原子力研究開発機構  
敦賀事業本部

高速増殖原型炉もんじゅ非常用ディーゼル発電機B号機  
シリンダヘッドインジケータコックの変形に係る原因と対策の補正について  
(お知らせ)

当機構は、「もんじゅ」の非常用ディーゼル発電機B号機シリンダヘッドインジケータコックの変形\*<sup>1</sup>に係る報告書(原因と対策)\*<sup>2</sup>について、これまでの原子力規制庁との面談を踏まえ、原因と対策を再整理した報告書の補正を本日、原子力規制委員会に提出しましたので、お知らせいたします。

なお、報告書の補正の全文につきましては、当機構のホームページに掲載しています。

今後、当該設備の早期復旧を図り、安全管理に万全を期してまいります。

\*1: 高速増殖原型炉もんじゅ(定格出力28万kW)は、低温停止中の平成27年7月17日14時20分頃、非常用ディーゼル発電機B号機の分解点検中に、シリンダヘッド(No.7)の落下により、シリンダヘッドのインジケータコック及び潤滑油配管の変形を確認しました。本件による負傷者はなく、潤滑油の漏れ、環境への影響もありません。  
なお、非常用ディーゼル発電機はA、C号機が自動待機中です。

【平成27年7月17日 プレス発表済み】

\*2: その後、作業員等への聞き取り調査並びに現地及び工場での調査を実施し、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第62条の3の規定に基づく「原子炉施設故障等報告書(原因と対策)」をとりまとめ、原子力規制委員会に提出しました。

【平成27年8月28日 プレス発表済み】

以上

(原子力規制委員会への提出資料)

[高速増殖原型炉もんじゅ非常用ディーゼル発電機B号機シリンダヘッドインジケータコックの変形について](#)